

## 第1回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 平成29年8月9日(水)  
開会 13時30分 閉会 15時30分
2. 会 場 塩竈市杉村惇美術館
3. 出席者 塩竈市長 佐藤 昭  
塩竈市教育委員会  
教育長 高橋 睦麿  
教育長職務代理者 柴田 仁市郎  
委員 太田 忍  
委員 池野 暢子  
  
教育アドバイザー 田中 まゆみ  
教育アドバイザー 伊藤 義昭  
教育アドバイザー 鴫 久美子  
教育アドバイザー 梨本 雄太郎  
  
玉川小学校 校長 弓田 宣弘  
第二中学校 校長 佐々木 敦子  
学びの支援センター「コラソン」 所長 青木 真澄  
  
(事務局)  
市民総務部長 小山 浩幸  
政策課長 相澤 和広  
子育て支援課長 小倉 知美  
子育て支援課主幹 菅原 靖彦  
教育部長 阿部 光浩  
教育部教育総務課長 本田 幹枝  
教育部学校教育課副参事 穴戸 雅治  
教育部学校教育課指導主事 佐藤 康一  
教育部生涯学習課長 伊藤 英史  
教育部市民交流センター館長 伊東 英二  
教育部教育総務課総務係長 菊池 亮  
教育部教育総務課総務係主事 工藤 貴裕

4. 協議事項 議題1 小中一貫教育の取組状況について  
① 塩竈市独自の小中一貫教育推進事業について  
② 塩竈市小学校英語教育研究会担当校長会の取組について  
議題2 学びの支援センター「コラソン」の取組状況について
5. 報告事項 報告1 塩竈アフタースクール事業について  
報告2 第41回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文2017）及び  
平成29年度全国高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）  
について

## 6. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

### 議題1 小中一貫教育の取組状況について

#### ① 塩竈市独自の小中一貫教育推進事業について

（発表者：玉川小学校 校長 弓田 宣弘）

本年度から本格実施している小中一貫教育の進捗状況について、玉川中学校区の具体的取組を通して報告し、意見交換を行った。

### 【主な意見】

〈鵜アドバイザー〉 石巻市で小中一貫教育に携わった経験があるが、小中学校間で教え方や考え方に違いがあるため、その調整に非常に多くの時間を要した。この取組を通して、何かしらのものが今後残っていけば良いと感じた。

〈弓田校長〉 本市では、各学校に小中一貫教育コーディネーターを配置している。各校のコーディネーターになった教員達は、本年度の本格実施のためにやはり多くの時間、協議を行っていた。その活動が主軸となって、この事業が支えられていると感じている。また、本事業を時間割の全ての部分について実施するのではなく、例えば3時間目の部分だけ実施するというような形を取っているし、更には本事業を実施するにあたり、補充の教員も配置していただいているので、無理なく実施できるように考えている。小中学校間に違いがあるからこそ、この取組を通じて小中学校の壁を無くすことが大切であり、お互いの教え方や考え方を共有することで、共に子供達を育てていくことを目指していきたいと考えている。

〈柴田委員〉 この事業を通じて、児童と生徒の交流が更に深まり、お互いに思いやる気持ちが醸成されていくことを期待している。また、この事業を不登校やいじめ問題の解消にどのように繋げていくかが、今後の課題であると感じた。

〈弓田校長〉 2学期から児童と生徒の交流の部分が進んでいく予定である。例えば、小中学校間での挨拶運動等を考えている。お互いに負担にならないような取組について今後更に考えていき、児童と生徒の交流を深めていきたい。また、児童と生徒の交流を深めることが不登校やいじめ問題の解消に繋がるものと考えている。

〈田中アドバイザー〉 小中一貫教育の中で褒める教育、子供達の自己肯定感を伸ばしていく教育が大切であると思う。また一方で、9年間の小中一貫教育の中で小学校の基礎、中学校の基礎をしっかりと教えて、この取組を子供達の学力向上に繋げていくことも大切なのではないかと感じた。更には、この取組を特別支援学級の教育の部分にもどのように広げていくか考える必要もあるのではないか。

〈弓田校長〉 特別支援学級については、小中学校間だけの問題ではなく、その前の段階から、きちんとその子供達の現状を把握しておくことが大切であると考えている。その上で、子供達の状況に応じて学校や本市できちんと対応をしていくことが重要であると考えている。

〈梨本アドバイザー〉 最終的には、この小中一貫教育を子供達の学力向上にどのように繋げていくかが課題であるという部分については同感である。ただ、従来のように知識の習得が前提であって、その後に活用があるという流れで子供達への教育を考えるのではなく、児童と生徒の交流の中で、子供達の知識欲が自然と湧いてくるというような、従来の流れとは逆の活用の場があつての知識の習得という流れを現場の教員の方々が、どれだけ理解し、子供達の能力を引出してあげられるような教育を身に付けていけるかが、今後の課題であると感じた。これはすぐに成果が表れるものではないので、時間をかけて取組んでいただければ非常に楽しみであると感じた。

## 議題1 小中一貫教育の取組状況について

### ② 塩竈市小学校英語教育研究会担当校長会の取組について

(発表者：第二中学校 校長 佐々木 敦子)

平成32年度から、小学校の新学習指導要領が全面実施することを受けて、3,4年生の外国語活動及び5,6年生の外国語科の円滑な実施を図るために行っている調査や今後の準備計画等について報告し、意見交換を行った。

### 【主な意見】

〈伊藤アドバイザー〉 英語というのはコミュニケーションツールであるので、教員の方々も文法も大切だとは思っているのだが、もっと活用の場面を大切に、子供達が楽しみながら、苦手意識を持たせないような小学校における英語教育について考えていただきたいと感じた。

〈佐々木校長〉 小学校における英語教育については、慣れ親しむということを主題において考えている。3,4年生で英語に慣れ親しむ。5,6年生で文字に慣れ親しむ。そして中学校で文法という裏付けを学ぶことで、しっかりとした学力が身に付くものと考えている。

〈田中アドバイザー〉 新学習指導要領では、英語の授業に関して、教員が英語で授業をすることが望ましいと書かれているが、各教員が自発的に英語の授業に積極的に関わっていくという姿勢が、話す話せない以上に重要ではないかと感じた。小中一貫教育の取組の中で、例えば、挨拶運動の中で、中学生が英語で小学生に挨拶をするような取組を考えたらどうだろうか。

〈池野委員〉 我々が日本語を学ぶ時も、乳幼児期から会話を通して日本語を学んでいくので、英語を学ぶ時も会話を通じて、楽しさを感じながら学ぶことが大切であると感じた。

〈梨本アドバイザー〉 英語教育については、小学校で学ぶ部分と中学校で学ぶ部分に繋がりを持たせることが大切だと感じている。だからこそ、小中学校間で摺合せをする必要があると

考える。まさに、塩竈市で取組んでいる小中一貫教育で、この部分の課題について今後、取組まれていくだろうと期待している。ただ、英語をなぜ学ぶのか根本的な所を子供達にどのように伝えていくのが重要であると感じた。

〈高橋教育長〉 まさに梨本アドバイザーの言われるとおりであり、アクティブラーニングで言われている深く学ぶということは、単に表面上の知識の有無ということではなく、ものを深く考えて自分のものとして身に付けていけるかが重要であるので、教員自身もそうした意識を持って取組んでいくよう話をしていきたいと考えている。

## 議題2 学びの支援センター「コラソン」の取組状況について

(発表者：学びの支援センター「コラソン」 所長 青木 真澄)

平成29年度からスタートした「塩竈市子どもの心のケアハウス事業」について1年間の成果と課題について報告し、意見交換を行った。

### 【主な意見】

〈太田委員〉 コラソンが設置されたことは本当に素晴らしいことだと感じている。目に見える障がいと違い、心の問題は目に見えないので、周囲からの認知や理解がまだまだ充分でない中、子供達の居場所ができたことで、子供達はもちろんのこと子供達の両親も安心できるのではないかと感じる。こうした取組を更に周知していきたいと考えている。

〈田中アドバイザー〉 けやき教室だけでなく、こうした場所ができたことは大変良いことだと感じている。コラソンの予算措置というのはどのようになっているのか。

〈青木所長〉 宮城県のこころのケアハウス事業を塩竈市で委託を受けて実施しているものである。

〈高橋教育長〉 宮城県からは5年間補助を行うと聞いているが、その後予算がどうなるか不明なので、心配をしているところである。

〈柴田委員〉 心の問題を抱えた子供達が学べる場所があることは大変素晴らしいことである。是非、5年後もこの取組を続けていただきたいと感じた。

### ○報告事項

#### 報告1 塩竈アフタースクール事業について

平成29年度から本格スタートした「塩竈アフタースクール事業」の取組状況等について報告を行った。

#### 報告2 第41回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文2017）及び平成29年度全国高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）について

7月31日から8月7日にかけて開催されたみやぎ総文2017及び南東北インターハイの大会結果やおもてなしの取組状況について報告を行った。

### ○閉会